

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105003		
法人名	有限会社アースプロジェクト		
事業所名	グループホーム敬愛 (A棟)		
所在地	岡山市南区福田480-1		
自己評価作成日	平成 26年 1月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3370105003-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvosvoCd=3370105003-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 26年 1月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の高齢化・重度化が進む中で、看取りケアの必要性に迫られる機会が増えている。病院併設の施設ではないが、かかりつけ医・常勤看護師・介護士・管理栄養士・介護支援専門員等の専門職が協働して、着実にチームとしてのケア力をつけており、ご利用者様・ご家族様にご満足いただいている。また、地域運営推進会議の開催を併設の特別養護老人ホーム・小規模多機能居宅介護・介護付き有料老人ホームと協力して開催し、会を重ねるごとに地域との関わりが強まり、お互いに情報共有・交流が深まりつつある。文字通り地域に密着した施設として果たすべき役割が大きくなっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に特別養護老人ホームや介護付有料老人ホームなどが併設されている。お互いに連携を図り、利用者にとって適切なサービスを提供することができるよう努めている。食事は管理栄養士の献立に基づき3食手作りで提供している。栄養豊富な乾物を活用し、入所してから髪の毛が黒くなったとの声もある。ミキサー食の彩りにも気を配っている。食前に早口言葉や替え歌など嚥下のための体操をしたり、毎日ズンドコ体操やラジオ体操したりするなど運動にも力をいれている。運営推進会議には毎回、多くの方が参加している。事業所への理解が進むよう、施設の見学や利用者とのレクリエーション等も取り入れている。医療面では看護師が中心となり主治医と連携を図り、適切な対応が行われている。経験を積んだ職員が多く、利用者の自立支援に向けて意識が高い。内部研修も行われており、スキルアップを目指し自己研鑽を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果(A棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者様を敬い、愛する事」を理念として掲げ、詰所に掲示することで、職員がその理念を共有できるよう努めている。また、新規職員採用の際には、理念の説明を行っている。	理念である「敬い愛する」はGHの名前そのものである。玄関、事務所に掲示し、職員は日々の言葉かけの際、常に頭に入れ利用者として接している。職業倫理の表を詰め所に貼り、注意点や失敗しやすい項目について、自分でチェックできるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・老人会に加入して、地域の川掃除や夏祭り、運動会等の行事に参加したり、地域の老人会の方々に慰問に来ていただいたりして、交流を図っている。	町内会や老人会に入り、ボウリング・ディスコン・公園の清掃などに参加し交流している。顔の見える関係作りを心掛けているとのこと。ボランティアによる演芸会、月1回の音楽療法など訪問者が多い。施設合同の夏まつりでは、綿菓子、カキ氷などの店を出し、子どもを含めて大勢の参加がある。	幼・小・中・高校が近くにあり、恵まれた立地となっています。子供達とふれあいの機会が増えることで、利用者の生活の潤いが増えるのではないかと思います。検討を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災勉強会や南地区の看取りに関する勉強会に参加し、事業所での実践を踏まえて、意見交換を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の特養・小規模多機能居宅介護・有料老人ホーム等と合同で毎月、地域交流委員会を開催している。地域運営推進会議は年6回開催し、定例報告の後、介護の事例報告や防災についての地域連携について検討した。	2ヶ月に1回開催し、毎回12～13人が参加している。報告や意見交換の他に、事業所の見学会をしたり、利用者と一緒にゲームをしたりしている。できるだけ事業所を知ってもらう、認知症の人への理解が進むような取り組みをしている。参加者はGHの様子を外部に発信する役も担ってくれており、協力的である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方々に地域運営推進会議の委員になっていただき、事業所の実情を報告したり、岡山市介護保険課に、日々の業務で不明な点は随時問い合わせ、指示を受けている。	わからないことがあれば、岡山市介護保険課に電話をし、尋ねるようにしている。運営推進会議の案内は出していない。地域包括支援センターの職員は運営推進会議を中心に連携を図り、多様な意見をもらっている。	運営推進会議がとても活発でよい取り組みをたくさん行っています。岡山市介護保険課に参加案内を出したり、議事録を提出したりするなどし、事業所や取り組みを知ってもらうよう働きかけをお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月のカンファレンス時に開催し、話し合いの機会を持っている。徘徊や帰宅願望の強い方が多いため、やむを得ず玄関は施錠している。また、身体拘束についての社内研修会を開催している。	利用者の状態に合わせて玄関と各ユニットの入口の施錠を検討し、現在は施錠している。言葉による拘束をしないように日頃から注意している。ベッド柵は1ヶ所は開ける、車椅子でも塞がないようにしている。年1回は身体拘束について勉強会をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「施設内虐待」に関する内部研修を行った。日々の排泄の声かけ等の中にも、虐待の自覚なく行っている行為があり、その危険性を参加職員で共有した。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を検討する必要があるケースがあったが、実際に申請するには至らなかった。書面回覧を行い、職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、代表者と看護師、介護支援専門員、管理者が同席し、十分時間をとって丁寧に説明している。質問があれば各専門分野からの適切な回答をし、納得・同意していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やそのご家族が意見・要望を気軽に職員に話せるよう、面会時や電話連絡時には、聞き取りをしたり、話しやすい雰囲気づくりに配慮している。口頭で伝えにくい場合は、玄関に意見箱を設置して、筆記による意見収集を行っている。	家族の面会が多く、その際に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いている。面会が少ない場合電話によりコミュニケーションを図っている。『敬愛だより』を発刊し、担当職員が1人ひとりの利用者についてコメントを記載し、家族に送付している。家族会は発足しているが、今年度活動がなかった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスには代表者・管理者・職員が参加し、入居者様に関することや職員体制・業務について等、幅広く意見を活発に交換し合っている。	各ユニットごとにカンファレンスをしている。代表者が出席するので大きな買い物や支援に関すること、業務内容など職員からの提案に対し、すぐに回答があり、スピード感をもって実行できる。職員個々の面談は実施していないが、管理者が様子を見て声をかけ、話を聞いている。	各ユニットがそれぞれ特徴があり、自信を持って支援を行っています。今後、ユニットが3つあることを活かした取り組みを検討して頂き、利用者にとって楽しい時間が増えていくことを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、随時現場に足を運び、また管理者との連絡を密にとることにより、業務や職員同士の間関係等について把握している。また管理者は、資格取得に関して、勤務調整する等、取得しやすい労働環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、年間スケジュールを決めて実施している。外部研修は、職員掲示板に随時案内を掲示して参加を促している。また新人職員に対しては、約1ヵ月間は利用者との関わり方や業務の流れ等について丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員同士の交流はなかったが、介護支援専門員が、研修や地域の会合に参加し、意見交換や情報収集する機会があり、現場のケアに生かせるようにしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時、生活状態を把握し、利用者・家族の不安・要望等を聞き取るようにしている。入居後はできる限り施設の生活スタイルを強要せず、環境に慣れていただくことに主眼をおいたケアを実施し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後において、利用者・家族の困り事、不安・要望等を聞き取り、事業所としての対応について丁寧に説明している。利用者の生活の様子は、電話や面会時にできる限り詳細に伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族から相談を受けた際は、事業所としてできることはすぐに実行し、実行不可能なことに関しては、相談を繰り返す中で利用者・家族が納得できる着地点を見出していくよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、それぞれが自分の得意な部分で力を出し、共に生活する仲間として、職員・入居者同士がお互いを認識し合える関係づくりに留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月に1度の「敬愛だより」等で、利用者の状況をきめ細かく報告・相談することで、ケアの方向性を共に考え、協力関係を築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、昔から利用している理髪店や美容院を定期的に利用したり、同級生や友人の面会を楽しんだり、手紙を書いて郵便局まで投函に行くなど、これまでの生活習慣の継続を支援している。	近所の友人やお店をしていた頃のお客さんが会いに来てくれることもある。家族の協力のもと、一時帰宅し、兄弟と一緒に食事会をした方もおられる。小さい頃の写真や家族の写真を見ながら昔を思い出し、一緒に話をするなど心掛けている。世間と離れないようにと考え、毎日、新聞を購読している方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や認知症の程度の差異等により、全員が同時に打ち解け合えることは困難な場合が多いが、職員が個別に、または全体的な場面で気配りすることで、利用者同士の関わり合いが円滑になるよう働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方の家族が遊びに来られ、顔見知りの利用者とは話をされる機会があったが、得意な事例である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、「どんなふうに暮らしたいか」「何がしたいか」等を尋ねる機会を持つよう心掛けている。意思疎通が困難な方は、家族から情報を得るようにしている。	利用者とは接する中で、気持ちや希望を聞いている。ゆっくりと一緒に過ごす時間を作り、思いを受け止める事ができるよう心掛けている。職員の思い込みで支援が進まないように、折に触れて本人の思いを尋ねている。家族にも電話や面会時に話を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活歴やライフスタイル等の詳細な聞き取りを行うが、入居後、信頼関係ができた後に得る情報も多いため、随時聞き取りを続け、職員間で情報共有することで、ケアに生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態観察に努め、把握した内容については、日々の介護記録やケアノート、家族連絡ノート等への記載や口頭での申し送りにて、情報の共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者及び家族から、望む暮らし方・困り事・要望等を聞き取るようにしている。発語がない方については家族の思いや意見や職員の意見等を反映させるようにしている。	担当が中心になって利用者と家族の思い、他の職員の意見などを聞き、原案を作り、計画作成担当者と話合っている。モニタリングでは支援した内容に加えて、利用者自身ができていることも記録している。利用者に変化があった場合はミニカンファレンスで、日々相談し、変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・ケアノート・家族連絡ノート・申し送りノートへの記載や口頭での申し送りにより、情報共有している。また、状況変化時には随時ミニカンファレンスを開き、ケア内容の微調整を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・誕生日会には、家族に参加していただき、一緒におやつを食べながら祝い、記念写真を撮るようにしている。 ・入院時には着替えや紙おむつ等の必要物品を随時届け、家族の負担軽減に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・本人の希望や体調に合わせて、月に1度、地域の訪問理美容サービスを利用している。 ・南地区の青果店から食材を購入・配達している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の往診医数名の中から利用者・家族に選んでいただいている。それ以外の医療機関を受診する際は、基本的に職員が同行するが、希望により家族にも同行していただく。	現在4カ所の病院より往診があり、健康管理を実施している。医療面は看護師が中心となり、主治医と情報交換し、連携を図っている。看護師が常駐しているため、いつでも相談することができ、安心感がある。夜間、何かあれば看護師に連絡し、指示を仰ぐようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護職員を配置しており、体調不良時は随時相談・報告を詳細に行い、指示を受ける。看護師の出勤日以外や夜間においても、24時間連絡可能な体制となっており、電話での指示や、必要時には出勤して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の生活情報を医療機関に提供し、治療・処置がスムーズに行えるよう、連携を図っている。入院中は随時職員が見舞い、着替えを届けたり、病状確認をしたりして、家族負担の軽減と速やかな退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合や終末期についての事業所の方針や家族の意向について確認し合うが、主治医の看取り診断時や病状変化時にも、随時確認し合い、方針にずれがないよう細心の注意をはらっている。	事業所で家族の理解と協力が得られた利用者の看取りを何人か経験した。職員はそれぞれの得意分野を生かして支援を行い、大変だったがやってよかったという感想であった。看取り後は反省会も実施している。家族の協力が得られるかどうか重要なポイントとなるため、随時話し合いを行うようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、社内研修を行い、また日々の業務の中で看護師より随時指導を受けている。今年度は、AEDを隣接施設に設置したことから、使用方法の研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行い、内1回は消防署立ち合いにて指導を受ける。また、月1回の定期防災チェックにて、避難・連絡方法等を確認し合っている。今年度は地震津波時の対策について隣接施設と連携しマニュアル作成を行った。	いざというときにスムーズに動けるよう、緊急通報やスプリンクラーの止水方法などを月1回練習している。年2回の避難訓練では近隣住民も参加し、様子を見学している。おしめや缶詰などの備蓄、布タンカの用意など防災対策に力を入れている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「入所者様を敬い、愛すること」という理念に基づき、一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損ねない言葉かけや対応を心掛けている。介護職員としての職業倫理のチェックリストを詰所に掲示し、注意喚起している。	「ちゃんづけ」にして呼ばない、なれなれしくしない、トイレへ誘う時の声は小さくなど、節度を持って接するようにしている。接遇に関する資料を回覧するなどスキルアップも図っている。個人情報について鍵のかかる棚へのファイル保管や申し送りは詰所で行うなど留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄・入浴・移動・臥床等の誘導時には、利用者の意向を尋ね、できる範囲内ではあるも、意向に沿えるよう心掛けている。また、手芸や家事等への参加は、一律ではなく、一人ひとりの力量や好みで選択できるように提案している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れはあるが、一人ひとりの体調や希望に合わせた対応を心掛けている。意思表示が困難な方に対しても、表情やしぐさから意向を読み取り、できる限り個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服を自分で選んでもらったり、こだわりのヘアスタイルを手伝ったりしている。また、食べこぼしで汚れた衣服は着替えていただいたり、口の周囲や手指は常に清潔にすることを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の果実を一緒に収穫して、おやつに出す等して、食への関心を引き出したり、下膳の手伝いをしていただき、役割意識がもてるよう支援している。また、ミキサー食の方の食事も彩に配慮して食欲を引き出す工夫をしている。	各ユニットで手作りの食事を提供している。ゴマをすったり、昆布を切ったりするなどできることは利用者も一緒に行っている。畑の野菜や果物、乾物など活用している。週1回、移動パン屋が来所し、みんな自分の好きなパンを選ぶのを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が、熱量・塩分量を計算し、栄養バランスの良い献立作りをしている。食欲低下時には、かかりつけ医に相談し補助食品を処方してもらったり、嗜好品や食べやすいもので補食・補水している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、洗面所での歯磨きを促したり、職員が介助にて、ウエットティッシュで口腔清拭をしたり、特殊な形状の歯ブラシで歯磨きを手伝ったりしている。一人ひとりの状態に合わせて保清		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを観察し、尿意のない方には、時間を見計らって誘導するようにしている。紙オシメやパッド類の使用については、使用感とコストを常に見直すようにしている。	利用者の排泄のパターンを把握し、誘導している。尿量や体型などを考慮し、その人に合ったおしめの組み合わせ、重ね方、フィット感を常に検討している。カンファレンスでもあて方の研究をしている。少しでもコストダウンになるよう3ユニットで統一したものを使用し、よいものがあれば試している。夜はトイレの前にランタンを置き、暗い中でもトイレの場所がわかるよう工夫している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて、量や形状、頻度を把握し、必要に応じて下剤により調整するほか、水分の摂取や運動、マッサージ機の使用を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の誘導に拒否が強い時には、無理強いせず、日を変更したり、清拭にしたりしている。入浴時は、体調に支障がなければ、自分のペースでゆっくりと入っていただけよう工夫している。	基本的に週2回、入浴支援をしている。身体的に重度化しており、シャワー浴を利用する方が多くなっている。本人の体力を考え、体清拭を行う場合もある。夜間の入浴希望もあるが、今の所対応できていない。季節によりゆずやミカンの皮を入れ、入浴を楽しんでいる。	利用者の重度化により、浴槽の出入りが困難な場合があります。今後のことを見据えて、リフト浴設置の検討も始められてはいかががでしょうか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、心地よい眠りにつけるよう、日中の活動や午睡の時間等に配慮している。夕食後は、皆で団らんの時を過ごしたのち、居室臥床し、テレビをみたり、読書したり自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は詰所で預かり、内服時には誤薬がないように名前と薬袋を確認してから与薬している。また、薬状書で効能・用法等は確認し、変更時にはケアノートに記入することで周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の花を摘んで生けたり、花の水やりをしたり等の楽しみの支援や、洗濯物たたみや食事の後片付け等の簡単な家事、献立表を書くこと等それぞれが持てる力を発揮できるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒に、受診を兼ねてドライブに行ったり、買い物に出かけたり、また家族と一緒に外出に行ったり等、気分転換を兼ねて、個別の支援を工夫している。	近所のスーパーへ買い物に行ったり、ドライブに出かけたりしている。天気のいい日には玄関先でおやつを食べながら日光浴をしたり、近隣を散歩したりすることもある。身体的に重度化が進んでおり、遠くへ外出することが難しくなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を所持・管理することはしておらず、買い物や外食に行った際の支払いは、職員が行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族や親族に電話がかけられるようにしている。また、年賀状を書くことを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下等の壁面は、手芸や工作、習字等の作品発表の場として利用している。過度な装飾にならないよう、また特定の趣味・趣向に偏らないよう配慮している。	3ユニットそれぞれ雰囲気が違っている。世界遺産になった富士山をみんなで登っているちぎり絵が飾られている所、手芸が好きでハンガーに布を巻いたり、編み物作品を飾っている所など様々である。リビングは日差しが明るく、ソファも設置され居心地よく過ごせるよう工夫されている。門から玄関まで季節の花や木々が植えられ、裏には菜園も用意されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング中央にあるテーブル席の周りにはソファ席を配置し、気の合う利用者同士が団らんできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒の危険等のない方には、タンス・写真・ご位牌等の思い出の品を持ち込み、馴染みの物に囲まれた居心地よい居室環境づくりを支援している。身体介助量の多い方は、できる限り介助しやすい動線を確保させていただいている。	利用者に合わせてベッドの配置や飾りなど配慮している。物があることで気になってしまう方には物を置かないようにしている。基本的に持ち込みは自由である。お位牌や絵手紙の道具、家族の写真、書き物をする机などその人らしい暮らしができるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレには施錠しない代わりに「使用中」の札を下げたりして混乱や行動の失敗を回避している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105003		
法人名	有限会社アースプロジェクト		
事業所名	グループホーム敬愛 (B棟)		
所在地	岡山市南区福田480-1		
自己評価作成日	平成 26年 1月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=3370105003-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=3370105003-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 26年 1月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(B棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者を敬い、愛する事」を理念として掲げ、詰所に掲示することで、職員がその理念を共有できるよう努めている。また、新規職員採用の際には、理念の説明を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・老人会に加入して、地域の川掃除や夏祭り、運動会等の行事に参加したり、地域の老人会の方々に慰問に来ていただいたりして、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災勉強会や南地区の看取りに関する勉強会に参加し、事業所での実践を踏まえて、意見交換を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の特養・小規模多機能居宅介護・有料老人ホーム等と合同で毎月、地域交流委員会を開催している。地域運営推進会議は年6回開催し、定例報告の後、介護の事例報告や防災についての地域連携について検討した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方々に地域運営推進会議の委員になっていただき、事業所の実情を報告したり、岡山市介護保険課に、日々の業務で不明な点は随時問い合わせ、指示を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月のカンファレンス時に開催し、話し合いの機会を持っている。徘徊や帰宅願望の強い方が多いため、やむを得ず玄関は施錠している。また、身体拘束についての社内研修会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「施設内虐待」に関する内部研修を行った。日々の排泄の声かけ等の中にも、虐待の自覚なく行っている行為があり、その危険性を参加職員で共有した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を検討する必要があるケースがあったが、実際に申請するには至らなかった。書面回覧を行い、職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、代表者と看護師、介護支援専門員、管理者が同席し、十分時間をとって丁寧に説明している。質問があれば各専門分野からの適切な回答をし、納得・同意していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やそのご家族が意見・要望を気軽に職員に話せるよう、面会時や電話連絡時には、聞き取りをしたり、話しやすい雰囲気づくりに配慮している。口頭で伝えにくい場合は、玄関に意見箱を設置して、筆記による意見収集を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスには代表者・管理者・職員が参加し、入居者様に関することや職員体制・業務について等、幅広く意見を活発に交換し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、随時現場に足を運び、また管理者との連絡を密にとることにより、業務や職員同士の人間関係等について把握している。また管理者は、資格取得に関して、勤務調整する等、取得しやすい労働環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、年間スケジュールを決めて実施している。外部研修は、職員掲示板に随時案内を掲示して参加を促している。また新人職員に対しては、約1ヵ月間は利用者との関わり方や業務の流れ等について丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員同士の交流はなかったが、介護支援専門員が、研修や地域の会合に参加し、意見交換や情報収集する機会があり、現場のケアに生かせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時、生活状態を把握し、利用者・家族の不安・要望等を聞き取るようにしている。入居後はできる限り施設の生活スタイルを強要せず、環境に慣れていただくことに主眼をおいたケアを実施し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後において、利用者・家族の困り事、不安・要望等を聞き取り、事業所としての対応について丁寧に説明している。利用者の生活の様子は、電話や面会時にできる限り詳細に伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族から相談を受けた際は、事業所としてできることはすぐに実行し、実行不可能なことに関しては、相談を繰り返す中で利用者・家族が納得できる着地点を見出していくよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、それぞれが自分の得意な部分で力を出し、共に生活する仲間として、職員・入居者同士がお互いを認識し合える関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月に1度の「敬愛だより」等で、利用者の状況をきめ細かく報告・相談することで、ケアの方向性を共に考え、協力関係を築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会や祭りに参加したり、実家に戻り、兄弟・親族と会食したり、季節ごとに墓参りに行ったり、一人ひとりの生活習慣を継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や認知症の程度の差異等により、全員が同時に打ち解け合えることは困難な場合が多いが、職員が個別に、または全体的な場面で気配りすることで、利用者同士の関わり合いが円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方の家族が遊びに来られ、顔見知りの利用者と話をされる機会があったが、得意な事例である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、「どんなふうに暮らしたいか」「何がしたいか」等を尋ねる機会を持つよう心掛けている。意思疎通が困難な方は、家族から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活歴やライフスタイル等の詳細な聞き取りを行うが、入居後、信頼関係ができた後に得る情報も多いため、随時聞き取りを続け、職員間で情報共有することで、ケアに生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態観察に努め、把握した内容については、日々の介護記録やケアノート、家族連絡ノート等への記載や口頭での申し送りにて、情報の共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者及び家族から、望む暮らし方・困り事・要望等を聞き取るようにしている。発語がない方については家族の思い・意見や職員の意見等を反映させるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・ケアノート・家族連絡ノート・申し送りノートへの記載や口頭での申し送りにより、情報共有している。また、状況変化時には随時ミニカンファレンスを開き、ケア内容の微調整を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・誕生日会には、家族に参加していただき、昼食やおやつの提供を行っている。 ・入院時には着替えや紙おむつ等の必要物品を随時届け、家族の負担軽減に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・本人の希望や体調に合わせて、月に1度、地域の訪問理美容サービスを利用している。 ・南地区の青果店から食材を購入・配達していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の往診医数名の中から利用者・家族に選んでいただいている。それ以外の医療機関を受診する際は、基本的に職員が同行するが、希望により家族にも同行していただく。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護職員を配置しており、体調不良時は随時相談・報告を詳細に行い、指示を受ける。看護師の出勤日以外や夜間においても、24時間連絡可能な体制となっており、電話での指示や、必要時には出勤して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の生活情報を医療機関に提供し、治療・処置がスムーズに行えるよう、連携を図っている。入院中は随時職員が見舞い、着替えを届けたり、病状確認をしたりして、家族負担の軽減と速やかな退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合や終末期についての事業所の方針や家族の意向について確認し合うが、主治医の看取り診断時や病状変化時にも、随時確認し合い、方針にずれがないよう細心の注意をはらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、社内研修を行い、また日々の業務の中で看護師より随時指導を受けている。今年度は、AEDを隣接施設に設置したことから、使用方法の研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行い、内1回は消防署立ち合いにて指導を受ける。また、月1回の定期防災チェックにて、避難・連絡方法等を確認し合っている。今年度は地震津波時の対策について隣接施設と連携しマニュアル作成を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「入所者様を敬い、愛すること」という理念に基づき、一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損ねない言葉かけや対応を心掛けている。介護職員としての職業倫理のチェックリストを詰所に掲示し、注意喚起している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄・入浴・移動・臥床等の誘導時には、利用者の意向を尋ね、できる範囲内ではあるも、意向に沿えるよう心掛けている。また、手芸や家事等への参加は、一律ではなく、一人ひとりの力量や好みで選択できるように提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れはあるが、一人ひとりの体調や希望に合わせた対応を心掛けている。意思表示が困難な方に対しても、表情やしぐさから意向を読み取り、できる限り個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服を自分で選んでもらったり、こだわりのヘアスタイルを手伝ったりしている。また、食べこぼしで汚れた衣服は着替えていただいたり、口の周囲や手指は常に清潔にすることを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	庭や畑で収穫した野菜や果実を食材として使用したり、一緒に保存食を作ったりして、食に興味・関心を持ち、楽しんで食べられるように支援している。また、ゴマ擦りや昆布を切ること等の簡単な調理は手伝っていただくようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が、熱量・塩分量を計算し、栄養バランスの良い献立作りをしている。食欲低下時には、かかりつけ医に相談し補助食品を処方してもらったり、嗜好品や食べやすいもので補食・補水している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、洗面所での歯磨きを促したり、職員が介助にて、ウェットティッシュで口腔清拭をしたり、特殊な形状の歯ブラシで歯磨きを手伝ったりしている。一人ひとりの状態に合わせて保清		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを観察し、尿意のない方には、時間を見計らって誘導するようにしている。紙オシメやパッド類の使用については、使用感とコストを常に見直すようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて、量や形状、頻度を把握し、必要に応じて下剤により調整するほか、水分の摂取や運動、マッサージ機の使用を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の誘導に拒否が強い時には、無理強せず、日を変更したり、清拭にしたりしている。入浴時は、体調に支障がなければ、自分のペースでゆっくりと入っていただけるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、心地よい眠りにつけるよう、日中の活動や午睡の時間等に配慮している。夕食後は、皆で団らんの時を過ごしたのち、居室臥床し、テレビをみたり、読書したり自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は詰所で預かり、内服時には誤薬がないように名前と薬袋を確認してから与薬している。また、薬状書で効能・用法等は確認し、変更時にはケアノートに記入することで周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、ゴマ擦り等の家事や調理手伝いのほか、庭の果実や野菜で保存食を作ったり、種蒔きをしたり等、馴染みのある作業を依頼することで、日々の暮らしの中で楽しみや張り合いを見つけられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	充分には行えていないが、散歩をしたり、車椅子で戸外に出たり、また外食のため出かけたりにしている。職員数が少ない時には、ドライブのみの外出を行い、車内でおやつを食べたりすることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を所持・管理することはしておらず、買い物や外食に行った際の支払いは、職員が行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族や親族に電話がかけられるようにしている。また、年賀状を書くことを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下等の壁面は、手芸や工作、習字等の作品発表の場として利用している。過度な装飾にならないよう、また特定の趣味・趣向に偏らないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング中央にあるテーブル席の周りにはソファ席を配置し、気の合う利用者同士が団らんできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒の危険等のない方には、タンス・写真・ご位牌等の思い出の品を持ち込み、馴染みの物に囲まれた居心地よい居室環境づくりを支援している。身体介助量の多い方は、できる限り介助しやすい動線を確保させていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレには施錠しない代わりに「使用中」の札を下げたりして混乱や行動の失敗を回避している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105003		
法人名	有限会社アースプロジェクト		
事業所名	グループホーム敬愛 (C棟)		
所在地	岡山市南区福田480-1		
自己評価作成日	平成 26年 1月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=3370105003-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd">http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=3370105003-00&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 26年 1月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果(C棟)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居様を敬い、愛する事」を理念として掲げ、詰所に掲示することで、職員がその理念を共有できるよう努めている。また、新規職員採用の際には、理念の説明を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会・老人会に加入して、地域の川掃除や夏祭り、運動会等の行事に参加したり、地域の老人会の方々に慰問に来ていただいたりして、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の防災勉強会や南地区の看取りに関する勉強会に参加し、事業所での実践を踏まえて、意見交換を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設の特養・小規模多機能居宅介護・有料老人ホーム等と合同で毎月、地域交流委員会を開催している。地域運営推進会議は年6回開催し、定例報告の後、介護の事例報告や防災についての地域連携について検討した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方々に地域運営推進会議の委員になっていただき、事業所の実情を報告したり、岡山市介護保険課に、日々の業務で不明な点は随時問い合わせ、指示を受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月のカンファレンス時に開催し、話し合いの機会を持っている。徘徊や帰宅願望の強い方が多いため、やむを得ず玄関は施錠している。また、身体拘束についての社内研修会を開催している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「施設内虐待」に関する内部研修を行った。日々の排泄の声かけ等の中にも、虐待の自覚なく行っている行為があり、その危険性を参加職員で共有した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を検討する必要があるケースがあったが、実際に申請するには至らなかった。書面回覧を行い、職員の理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、代表者と看護師、介護支援専門員、管理者が同席し、十分時間をとって丁寧に説明している。質問があれば各専門分野からの適切な回答をし、納得・同意していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やそのご家族が意見・要望を気軽に職員に話せるよう、面会時や電話連絡時には、聞き取りをしたり、話しやすい雰囲気づくりに配慮している。口頭で伝えにくい場合は、玄関に意見箱を設置して、筆記による意見収集を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスには代表者・管理者・職員が参加し、入居者様に関することや職員体制・業務について等、幅広く意見を活発に交換し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、随時現場に足を運び、また管理者との連絡を密にとることにより、業務や職員同士の人間関係等について把握している。また管理者は、資格取得に関して、勤務調整する等、取得しやすい労働環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、年間スケジュールを決めて実施している。外部研修は、職員掲示板に随時案内を掲示して参加を促している。また新人職員に対しては、約1ヵ月間は利用者との関わり方や業務の流れ等について丁寧に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護職員同士の交流はなかったが、介護支援専門員が、研修や地域の会合に参加し、意見交換や情報収集する機会があり、現場のケアに生かせるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時、生活状態を把握し、利用者・家族の不安・要望等を聞き取るようにしている。入居後はできる限り施設の生活スタイルを強要せず、環境に慣れていただくことに主眼をおいたケアを実施し、信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前・入居後において、利用者・家族の困り事、不安・要望等を聞き取り、事業所としての対応について丁寧に説明している。利用者の生活の様子は、電話や面会時にできる限り詳細に伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族から相談を受けた際は、事業所としてできることはすぐに実行し、実行不可能なことに関しては、相談を繰り返す中で利用者・家族が納得できる着地点を見出していくよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、それぞれが自分の得意な部分で力を出し、共に生活する仲間として、職員・入居者同士がお互いを認識し合える関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や月に1度の「敬愛だより」等で、利用者の状況をきめ細かく報告・相談することで、ケアの方向性を共に考え、協力関係を築けるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の運動会や祭りに参加したり、面会の兄弟・親族と談笑したり、これまでの生活習慣を継続できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や認知症の程度の差異等により、全員が同時に打ち解け合えることは困難な場合が多いが、職員が個別に、または全体的な場面で気配りすることで、利用者同士の関わり合いが円滑になるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された方の家族が遊びに来られ、顔見知りの利用者と話をされる機会があったが、得意な事例である。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、「どんなふうに暮らしたいか」「何がしたいか」等を尋ねる機会を持つよう心掛けている。意思疎通が困難な方は、家族から情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時には生活歴やライフスタイル等の詳細な聞き取りを行うが、入居後、信頼関係ができた後に得る情報も多いため、随時聞き取りを続け、職員間で情報共有することで、ケアに生かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状態観察に努め、把握した内容については、日々の介護記録やケアノート、家族連絡ノート等への記載や口頭での申し送りにて、情報の共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時には利用者及び家族から、望む暮らし方・困り事・要望等を聞き取るようにしている。発語がない方については家族の思い・意見や職員の意見等を反映させるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・ケアノート・家族連絡ノート・申し送りノートへの記載や口頭での申し送りにより、情報共有している。また、状況変化時には随時ミニカンファレンスを開き、ケア内容の微調整を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入院時には着替えや紙おむつ等の必要物品を随時届け、家族の負担軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・本人の希望や体調に合わせて、月に1度、地域の訪問理美容サービスを利用させていただいている。 ・南地区の青果店から食材を購入・配達していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は事業所の往診医数名の中から利用者・家族に選んでいただいている。それ以外の医療機関を受診する際は、基本的に職員が同行するが、希望により家族にも同行していただく。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤で看護職員を配置しており、体調不良時は随時相談・報告を詳細に行い、指示を受ける。看護師の出勤日以外や夜間においても、24時間連絡可能な体制となっており、電話での指示や、必要時には出勤して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の生活情報を医療機関に提供し、治療・処置がスムーズに行えるよう、連携を図っている。入院中は随時職員が見舞い、着替えを届けたり、病状確認をしたりして、家族負担の軽減と速やかな退院支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、重度化した場合や終末期についての事業所の方針や家族の意向について確認し合うが、主治医の看取り診断時や病状変化時にも、随時確認し合い、方針にずれがないよう細心の注意をはらっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応については、社内研修を行い、また日々の業務の中で看護師より随時指導を受けている。今年度は、AEDを隣接施設に設置したことから、使用方法の研修を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防訓練を行い、内1回は消防署立ち合いにて指導を受ける。また、月1回の定期防災チェックにて、避難・連絡方法等を確認し合っている。今年度は地震津波時の対策について隣接施設と連携しマニュアル作成を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「入所者様を敬い、愛すること」という理念に基づき、一人ひとりの人格を尊重し、尊厳を損ねない言葉かけや対応を心掛けている。介護職員としての職業倫理のチェックリストを詰所に掲示し、注意喚起している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄・入浴・移動・臥床等の誘導時には、利用者の意向を尋ね、できる範囲内ではあるも、意向に沿えるよう心掛けている。また、手芸や家事等への参加は、一律ではなく、一人ひとりの力量や好みで選択できるように提案している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の生活の流れはあるが、一人ひとりの体調や希望に合わせた対応を心掛けている。意思表示が困難な方に対しても、表情やしぐさから意向を読み取り、できる限り個別対応に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの服を自分で選んでもらったり、こだわりのヘアスタイルを手伝ったりしている。また、食べこぼしで汚れた衣服は着替えていただいたり、口の周囲や手指は常に清潔にすることを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化に伴い、ミキサー食やキザミ食が増えているが、食べるときには、献立や食材の説明をし、味別の盛り付けや彩りに配慮している。また、希望により個人の好物を購入し、提供することもある。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が、熱量・塩分量を計算し、栄養バランスの良い献立作りをしている。食欲低下時には、かかりつけ医に相談し補助食品を処方してもらったり、嗜好品や食べやすいもので補食・補水している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、洗面所での歯磨きを促したり、職員が介助にて、ウェットティッシュで口腔清拭をしたり、特殊な形状の歯ブラシで歯磨きを手伝ったりしている。一人ひとりの状態に合わせて保清		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを観察し、尿意のない方には、時間を見計らって誘導するようにしている。紙オシメやパッド類の使用については、使用感とコストを常に見直すようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて、量や形状、頻度を把握し、必要に応じて下剤により調整するほか、水分の摂取や運動、マッサージ機の使用を促すようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の誘導に拒否が強い時には、無理強せず、日を変更したり、清拭にしたりしている。入浴時は、体調に支障がなければ、自分のペースでゆっくりと入っていただけるよう工夫している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え、心地よい眠りにつけるよう、日中の活動や午睡の時間等に配慮している。夕食後は、皆で団らんの時を過ごしたのち、居室臥床し、テレビをみたり、読書したり自由に過ごしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は詰所で預かり、内服時には誤薬がないように名前と薬袋を確認してから与薬している。また、薬状書で効能・用法等は確認し、変更時にはケアノートに記入することで周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、ゴマ擦り等の家事や調理手伝いのほか、庭の果実や野菜で保存食を作ったり、種蒔きをしたり等、馴染みのある作業を依頼することで、日々の暮らしの中で楽しみや張り合いを見つけられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	足元が不安定な方が増えたため充分には行えていないが、職員が付き添い散歩をしたり、玄関先のロビーで日光浴をしながら歌を歌ったりするともある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を所持・管理することはしておらず、買い物や外食に行った際の支払いは、職員が行うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により、家族や親族に電話がかけられるようにしている。また、年賀状を書くことを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下等の壁面は、手芸や工作、習字等の作品発表の場として利用している。過度な装飾にならないよう、また特定の趣味・趣向に偏らないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング中央にあるテーブル席の周りにはソファ席を配置し、気の合う利用者同士が囲んでできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒の危険等のない方には、タンス・写真・ご位牌等の思い出の品を持ち込み、馴染みの物に囲まれた居心地よい居室環境づくりを支援している。身体介助量の多い方は、できる限り介助しやすい動線を確保させていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレには施錠しない代わりに「使用中」の札を下げたりして混乱や行動の失敗を回避している。		